和教時報

2024年10月15日（火）発行　第2014号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みばん

人事委員会、国に準じて給料引上げを勧告！ 地域手当は明言を避ける

県人事委員会が一〇月一一日、県費職員の賃金等について知事と議長に勧告しました。教育三者共闘会議（和教組・和高教・教育庁職組）は、一五日に県教委に要求書を提出し、今年の確定交渉が始まりました。労働条件の改善をめざし力を合わせましょう！

人事委員会は県内一〇〇社の四月給与と県職員の給与を比較、県職員が九八二二円低かったとして、国家公務員に準じ、若年層に重点を置きつつ全職員を対象に給料表を改善するよう勧告しました。ボーナスは〇・一月引上げます。実現すれば昨年の倍以上の差額支給となりますが、ベテラン層には物価高騰のなかで不満の残る内容です。

国人勧が国家公務員の地域手当を見直し、和歌山市・橋本市を二年かけて四%に引き下げるとしました（現行六%、県内のその他地域〇%。県は独自に和歌山市・橋本市五%、その他地域一・五%に措置）。政府が地方に「国に準拠せよ」と圧力を強めるなか、人事委員会の勧告が注目されていましたが、県人勧は「国の見直しを踏まえる」としつつも、「国とは異なる独自措置を講じてきた状況」や「人材確保への影響等を考慮」し、「適切な措置を講じることが適当」と、支給率について明言を避けました。人事委員会交渉で「引下げ反対」と要求してきた成果でもあります。

扶養手当は国に準じて子の手当を引上げる一方、配偶者手当は二年後に廃止としました。通勤手当の特急・高速料金は全額支給への改善を示しました。

また、教育職員の働き方改革については、県教委に対して引き続き「具体的な成果を出す必要がある」と指摘し、「市町村教育委員会と一体となって」進める必要性を強調しました。

今年の確定交渉は、地域手当が大きな課題となりますが、他にも「先読み加配」の拡充など出産・子育てに係る権利、臨時的任用教職員の賃金改善、会計年度任用職員の更新回数（現行二回）の撤廃など、重要な課題がたくさんあります。組合の役割を存分に発揮して要求実現を勝ち取りましょう。

輝いてワンショット

「私はこう思います」

（障害児学校部　職場活動交流合宿より）

ピンのスポット 424

先日、所属している学校で、保護者交流会を企画してみたところ、小さい学校ですが、六割の方が参加しました。教職員は話のテーマとお茶菓子を用意し、サブに徹したところ、とても盛りあがり、時間延長に。「また参加したい」というパパの感想もありました。コロナ前は気の合うママだけでパパに子どもを預けて交流していたこともあったようですが、現在はなくなったようです。保護者も繋がることで「自分だけ子育てがしんどいのではない」と思い、自己責任から開放される様に思います。また、愚痴を束ね、少しでも通い易い学校にして行こうという意見も出た様です。ここでPTAの役割を再確認できました。そこで組合運動とも繋がることができれば、これほど「中身のある子育て支援はない」と思いました。

（I）

日本母親大会 in 和歌山

9月28日・29日

実行委員会
事務局次長　岩田　美和

一九五四年三月一日太平洋のビキニ環礁で日本の漁船が被爆し、乗組員の方が亡くなりました。日本は「汚染まぐろ」「放射能の雨」で平和と暮らしが脅かされていました。核兵器の廃絶に向けて多くの女性が立ち上がり、母親運動の原点が作られたのです。全体会はこの被爆した「第五福竜丸展示館」の学芸員・安田和也さんの講演でした。この船は和歌山の串本で作られ、和歌山市民生協の方の運動によってエンジンが引き上げられています。いくつものご縁でつながり、草の根で広がっている運動の先頭に立つ方のお話は、私にはとても新鮮かつ身近であり、勇気を頂くことができました。会場には「核のない社会」を目指す人たちのうねりが起こり、オンライン会場でも拍手やすすり泣きが聞こえました。また、オープニングには紀の川市の「ポルテク」によるパフォーマンス、「歌声オールスターズ」の平和の歌の合唱、『わかやまのたたかい』では退職教職員が中心となったプロ級のシナリオ劇が披露され、最高の形を残しました。

二日目の分科会でも老若男女、オンラインも含め、二日で約一一五〇〇人の参加があり、準備した資料が足りなくなる程でした。中でも子どもが寝転んで参加できる若い世代のしゃべり場、有吉佐和子記念館や深山の砲台跡をめぐる見学分科会は和歌山ならではの取組であり綿密な打ち合わせが繰り返され、目玉企画となりました。コロナ禍を挟み、約五年越しで実現した母親大会in和歌山はゴールではなく、平和な世界を築くための手段であり、経過です。これに携わることができたことに誇りをもち、次世代にバトンをつないでいきたいと思います。

障害児学校部職場活動交流合宿

初めて知った「人事院勧告制度」

和教組障害児学校部長　山口　法之

九月二一日、白浜町のむろべにおいて、今年度の障害児学校部職場活動交流合宿を開催し、ほとんどの分会から、全二〇名の参加者を得て開催しました。

はじめに今年度の人事院勧告の主な内容について説明を聞いたあと、「私たちの権利～昨年度、給料が上がったのはなぜ？～」というテーマで、本部の川口書記長を講師に学習しました。この間の政治と情勢、公務員賃金と春闘のかかわり、人勧制度から昨年度の確定交渉の結果についてまで、わかりやすく学ぶことができました。

参加者からは「人事院勧告の意味を初めて知った」、「春闘と公務員賃金の関係がよくわかった」、「組合の必要性、重要性がよくわかった」などの感想が寄せられました。

その後、二つのグループに分かれて、職場活動や職場の問題について交流、議論し、あっという間に時間がすぎていきました。

その後は残れる人だけで夕食交流会をおこない、昼間、話しきれなかったことや聞きそびれたことなどを夜遅くまで語り合いました。

年々、宿泊できる人数が減っていますが、昼間の学習だけではなく、一緒に夕食を食べたり、泊まったりすることのメリットを押し出しながら、今後もこの取り組みを続けていきたいと考えています。

那賀支部教研開催

那賀支部書記長　部家　司好

九月二一日（土）荒川中学校において、二〇二四年度那賀支部教科別教研を開催しました。当日は、一〇の分科会に二七名の参加で少しさびしい会になりましたが、レポート発表や報告を皮切りに、日頃の実践や悩みを対面で交流し合いました。終了後は、みんな晴れやかな顔で、あすからの授業にアイディアをもらった様子でした。

感想文には、「日頃の取り組みや悩みについて、たくさんの話ができてよかったです。楽しかった！」「とても楽しかったです。来週からも使える内容がいっぱいでした」「普段、自分がしている授業を伝えることによって、新たな発見もすることができてよかった」などの感想が書かれていました。

今年は「未来をひらく教育のつどい」・県教研が一一月二二日（金）、二三日（土）に那賀地方で開催されます。現地実行委員会では、たくさんの参加者で成功するように準備をすすめています。自分たちの実践力を高めるためにも、県下各地から那賀に来てくださいね。

那賀で共済カフェ 総合共済3名加入！

和教組副執行委員長　野口　共

紀の川市立那賀中学校で共済カフェを開催していただけるということで、和教組本部より私（野口）と和教共済から松下さんとで那賀中学校に九月三〇日の夕方にお邪魔させていただきました。学校へ行く途中、ケーキを買う予定にしていた店が臨時休業というハプニングもありましたが、別の店でケーキを調達し、予定時間より少し遅れて始めました。

学校では五名の職員が参加してくれました。私から和教組や和教共済のこと、和教組が共済事業をしていることについて説明しました。そのあと職場の組合員から未加入の方に全教共済の良さや全教自動車保険の優位性について自分の体験も交えながら語られました。

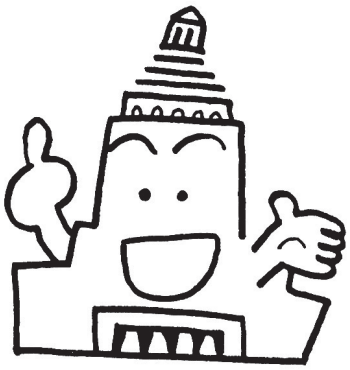
日頃多忙な状況で教職員同士なかなかしゃべる機会も減っているとのことでケーキもあり、気軽にいろいろな話ができる場になってよかったと言っていただきました。また未加入の青年教職員の方三名が総合共済に加入してくれました。

和教共済では、「共済カフェをしませんか」と呼びかけさせてもらっています。

皆さん、忙しい中ではございますが、少しほっとした時間を「共済カフェ」で作りませんか？お問い合わせは、和教共済まで！

投票に行って もっと「教育にお金をかける政治」をつくろう！

10月27日　総選挙



政治の流れを変える絶好のチャンス！

今度の総選挙は、「政治と金」問題に、私たち国民が厳しい審判を下す絶好の機会です。企業や団体からの政治献金やパーティ券収入などで私腹を肥やし、国民生活よりも大企業や資産家を優先したこれまでの政治にストップをかけ、私たち国民こそが主人公の政治を実現しましょう。

軍事対軍事では平和は守れない！

ウクライナやガザ地区では今も多くの子どもたちの命が奪われています。日本でも沖縄県の南西諸島でミサイル基地が建設され、自衛隊と米軍が一体となって「戦争する国づくり」が進められていますが、軍事対軍事では平和は守れません。政府は大軍拡ではなく、憲法九条を持つ国として外交や話し合いによる平和の構築に力を尽くすべきです。

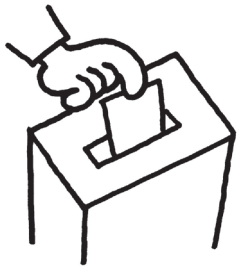
増やすべきは「防衛予算」ではなく、教育予算・能登半島の復興予算です！

政府は防衛費を倍増する計画を進める一方で、教職員の異常な働き方は無視し、教職員増員には背を向けています。政治の最大の仕事は予算の配分です。ようやく小学校での三五人学級編制が実現しましたが、欧米の先進諸国と比べてまだまだ低い水準です。日本の教育予算は対ＧＤＰに占める割合がＯＥＣＤ加盟国の中で最低レベルで、せめてＯＥＣＤの平均まで引きあげれば三〇人学級や大学までの学費無償化が実現できます。

元旦の大地震に続いて、記録的な豪雨が能登半島を襲い、甚大な被害が出ています。今すぐ、被災者の生活支援をはじめ、道路やインフラの復旧などのために予算を確保し、自治体任せではなく、政府として全力で復旧・復興に取り組むべきです。

私たちの一票で政治は変わる！選挙に行こう！

最近の国政選挙の投票率は全国で約五〇％程度で、有権者の半数近くは投票していません。「どうせ何も変わらない」「自分には関係ない」と思っている方もいらっしゃると思いますが、私たち有権者の一票で政治をかえることができます。棄権せず、選挙に行って「国民のいのちと暮らしを第一に考える政府」「教育にお金をかける政府」を実現しましょう！



教弘の事業案内

福祉事業（教弘保険加入者に限定）

- 祝金の給付…… 結婚１万円　　出産５千円
- 健康増進補助…… 人間ドック等の健康診断に３千円の補助
- マイカー購入補助… マイカーの購入に１万円の補助
- 書籍購入補助…… 書籍購入に３千円補助
  （年齢の１の位が３・８歳になった会員）
- 宿泊費補助（教弘指定ホテル）１泊３千円、年間２回利用可
- 誕生日（30、35、45、55歳）に記念品を贈呈

貸与奨学金事業（募集期間３月１日～４月20日）

- 無利子で奨学金（上限100万円）を貸与

公益財団法人　日本教育公務員弘済会和歌山支部
和歌山市小松原通3-20　☎073-421-7881